

令和 6 年度 豊郷中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

温かな人間関係のもと、豊かな心を持ち、自ら学び主体的に生きようとする生徒の育成

(1) 基本目標

- ・ 心身ともに健康で気力あふれる生徒
- ・ 自主的に学び創造性にとむ生徒
- ・ 思いやりがあり心豊かな生徒
- ・ 勤労と責任を重んじ実践力のある生徒

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

- ・ 心身を鍛える生徒
- ・ 自主的に学ぶ生徒
- ・ 思いやりのある生徒
- ・ 最後までやり抜く生徒

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「行きたい学校 通わせたい学校 勤めたい学校」

3 学校経営の方針（中期的視点）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

本校のスローガン

「笑顔と感動のあふれる学校 豊郷中 ～通じ合う心 粘り強い努力～」

【豊郷地域学校園教育ビジョン】（とよさとの学び）

○「豊かな郷の生き生きとした子どもたち」

〔重点課題〕

- ・ 主体的・対話的で深い学びを実現するため、分かる授業の実践や学習態度の育成、学習習慣の定着などにより学力向上を図る。
- ・ すべての教育活動を通して心の教育を推進し、豊かな心と社会性の育成を図る。
- ・ 元気アップ教育を推進するとともに、健康や体力への意識を高め健やかな心と体の育成と活力ある生活の確立を図る。
- ・ 家庭・地域との連携・協力を深め活気あふれる学校づくりに努める。
- ・ 各種教育活動の精選化とともにミドルリーダーを核とした校内組織の活性化・重点化により教職員の働き方改革を推進する

- (1) 学習指導において、教員間で授業を見せ合う機会を多くし、授業実践を通じた指導力の向上に努める。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「宇都宮モデル」の活用においては、各場面における指導の充実を図りながら、内容や時間のまとまり（単元や題材等）を見通した授業を展開し、学習指導要領を着実に実施する。
- (2) 特別活動において、生徒の自主的・自治的活動を積極的に取り入れ、安心して考えを伝え合い、互いに高め合える学級集団の育成に努める。また、一人一人の個性の伸長を図るとともに、人権教育や主権者教育など現代的な諸課題に向き合い、解決を図ろうとする態度を育成する。
- (3) ○道徳教育において、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、自己の生き方や人間としての生き方について考えを深めることができるよう道徳科の授業を柱に、学校の教育活動全体を通して計画的・系統的な指導を行い、自己肯定感やたくましさ、思いやりや人権を尊重する心などを育成する。
- (4) 生徒指導において、他者との関わり方を学ぶ教育活動を取り入れ、ソーシャルスキルやコミュニケーション能力の向上を図るとともに、身に付けた力を発揮できる場を意図的に設定することで、達成感や自己肯定感を高め、望ましい行動への意欲付けを図る。また、いじめを自分たちの問題として捉え、生命や人権を尊重し、差別やいじめを許さない態度を身に付けるとともに、規範意識の醸成を図る。
- (5) 不登校対策の充実を図るため、WEBQJの結果や個別の教育相談等を活用して、多角的・多面的に生徒理解を深め、不登校の兆しの早期発見・早期対応に努める。また、個々の状況に合わせた多様な支援を行えるよう校内環境を整備し、不登校の未然防止や学校復帰に向けた別室登校支援の一層の充実を図るなど、より早期の段階から組織的・計画的な支援に努める。
- (6) 保健安全指導において、「体力向上」「保健教育」「食育」「安全教育」の4つの教育を一体的に捉え、デジタルを効果的に活用しながら「元気アップ教育」を推進する。特に通学路の危険や安全な歩行・自転車の利用など、交通安全について指導するほか、火事や地震・水害等を想定した実践的な避難訓練を通して、自身の安全を守るための判断力や実践力を育成する。

- (7) 〇小中一貫教育を推進し、豊郷地域学校園で重点化・焦点化した活動を展開する。
- (8) 校舎・体育館等の施設・設備や緑化・掲示・言語等の環境の整備・充実に努める。
- (9) 〇保護者・地域住民等とのより良い人間関係を構築し、地域の小学校と連携した体験的な活動の充実を図り、地域とともにある学校づくりを推進して人間性や社会性豊かで広い視野に立つ生徒を育成する。また、「うつのみや学校マネジメントシステム」、「魅力ある学校づくり地域協議会」等を有効に活用しながら、家庭・地域との連携・協働に努める。
- (10) 学校運営では、「教職員の働き方改革」の視点から、ミドルリーダーを核とした校内組織の活性化を図り、校内業務の精選化・効率化を推進していくとともに、教職員一人一人が勤務時間を意識した働き方を推進する。

4 教育課程編成の方針

- (1) 持続可能な小中一貫教育を推進し、地域学校園で連携した取組を家庭や地域に積極的に発信するなど教育地域とともにある学校づくりの一層の充実を目指す。
- (2) 生徒の発達段階を考慮し、学習の基盤となる資質・能力や SDGs 等に係る現代的な諸課題に対応していくための資質・能力を育成することができるよう、教科等横断的な視点で、各教科等の関連付けを図りながら教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に〇印を付ける。

- (1) 学校運営
・ミドルリーダーを核とした組織の活性化と、校内業務の精選化・効率化
〇地域と連携した諸活動の推進
- (2) 学習指導
・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた、言語活動を通し問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成
〇学力向上を目指した、家庭及び地域学校園と連携した「豊郷の豊かな学び」の実現
- (3) 児童生徒指導
〇自主性と豊かな心や社会性をもった生徒の育成 一家庭・地域や小学校との連携を図って一
- (4) 健康（保健安全・食育）・体力
〇自ら運動に親しみ、体力の向上に励む生徒の育成
〇自己の心身を大切に、健康的生活習慣が確立した生徒の育成
〇正しい知識や望ましい生活習慣を身につけ、食への関心を持つ生徒の育成
〇危険を予測し、自らの命を守ることができる生徒の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に〇印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価												
1-（1） 確かな学力を育む教育の推進	A 1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒・教職員 肯定的回答90%以上	① 学習課題の提示（「はっきり」）やふり返り（「すっきり」）の設定を工夫し、生徒が主体的に学ぶ授業の実践に努める。 ② 生徒の対話を通して、思考力、判断力、表現力を伸ばす指導の充実を図る。 ③ 主体的な学びを実現するために、一人一台端末の効果的な活用に努める。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td><td>比較</td></tr><tr><td>生徒</td><td>93.3</td><td>91.1</td><td>-2.2</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0</td><td>100.0</td><td>0</td></tr></table> 【次年度の方針】 宇都宮モデル「はっきり」「じっくり」「すっきり」に基づいた、分かる授業づくりを継続する。また、ペアやグループワークの場面を意図的に設定し、対話を通して互いに学び合う授業づくりにも力を入れる。さらに、主体的な学びを実現するためのツールとして、一人一台端末の活用を工夫していく。		R 5	R 6	比較	生徒	93.3	91.1	-2.2	教職員	100.0	100.0	0
		R 5		R 6	比較											
生徒	93.3	91.1	-2.2													
教職員	100.0	100.0	0													

1ー(2) 豊かな心を 育む教育の 推進	A 2 生徒は、思いやりの心 をもっている。 【数値指標】 生徒・教職員 肯定的回答90%以上	① 「特別の教科 道徳」の充実のため、「考え、議論する道徳」を目指して授業改善を図るとともに、ローテーション道徳で様々な先生方の授業を受けることで、多面的に考える生徒の育成に努める。 ② 豊かな感性を育む機会の充実のため、朝の学習時の読書活動「朝読」を取り入れるとともに、学校図書館司書と連携した読書活動に努める。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td><td>比較</td></tr><tr><td>生徒</td><td>94.6</td><td>93.3</td><td>-1.3</td></tr><tr><td>教職員</td><td>97.4</td><td>95.0</td><td>-2.4</td></tr></table> 【次年度の方針】 生徒が多様な価値観に触れ、多面的に考える生徒を育成することを目的に実施したローテーション道徳を継続するとともに、考え議論する道徳を目指した授業改善に努める。ブックトークやビブリオバトル等、読書活動を推進する活動を継続し、豊かな感性を育む機会の充実を図っていく。		R 5	R 6	比較	生徒	94.6	93.3	-1.3	教職員	97.4	95.0	-2.4
		R 5		R 6	比較											
生徒	94.6	93.3	-1.3													
教職員	97.4	95.0	-2.4													
A 3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 生徒・教職員 肯定的回答85%以上	① 「挑戦する」活動、「がまんして」やり続ける活動、「あきらめず」努力する活動を意図的に設定し「笑顔と感動のあふれる学校」を目指す。 ② スモールステップでの達成感を得る機会を数多く作り、生徒のよさや努力を認め、意欲を高める指導の充実を図る。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td><td>比較</td></tr><tr><td>生徒</td><td>89.1</td><td>86.2</td><td>-2.9</td></tr><tr><td>教職員</td><td>89.5</td><td>90.0</td><td>+0.5</td></tr></table> 【次年度の方針】 学習や行事など、様々な場面で目標設定を行うとともに、設定した目標に向かって粘り強く取り組めるよう支援を続ける。また、小さな達成感であっても積み重ねていけるよう、生徒のよさや努力を認め、教職員で情報共有を密にしている。		R 5	R 6	比較	生徒	89.1	86.2	-2.9	教職員	89.5	90.0	+0.5	
	R 5		R 6	比較												
生徒	89.1	86.2	-2.9													
教職員	89.5	90.0	+0.5													
1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 生徒・教職員 肯定的回答90%以上	① 健康診断・新体力テスト等の結果を参考にして、体位・体力の調和と均整がとれるよう各運動領域での補強運動の工夫をする。 ② 給食の時間における食に関する指導の充実のため、食事の重要性、心身の健康、食品を選択する能力、感謝の心、社会性、食文化について、各教科等との関連を図りながら指導する。 ③ 安全面について生徒が自己指導能力を高められるよう、生徒会（安全委員会）の取組を拡充していく。	A	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td><td>比較</td></tr><tr><td>生徒</td><td>93.9</td><td>92.7</td><td>-1.2</td></tr><tr><td>教職員</td><td>89.5</td><td>95.0</td><td>+5.5</td></tr></table> 【次年度の方針】 保健体育・給食指導を通じた健康面に関する指導は継続しつつ、安全面については、生徒が自らの命やマナーについて考え行動できるよう、委員会活動等と連携を図りながら指導を続ける。また、交通安全については家庭と協力し、安全に登下校ができるよう啓発活動に力を入れていく。		R 5	R 6	比較	生徒	93.9	92.7	-1.2	教職員	89.5	95.0	+5.5
		R 5		R 6	比較											
生徒	93.9	92.7	-1.2													
教職員	89.5	95.0	+5.5													
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 生徒・教職員 肯定的回答90%以上	① どの生徒も活躍できる場を意図的に設定するなど、自己存在感のある学校を目指す。 ② 様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いの良さや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決しより良い生活が送れるよう指導する。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td><td>比較</td></tr><tr><td>生徒</td><td>91.5</td><td>90.9</td><td>-0.6</td></tr><tr><td>教職員</td><td>94.7</td><td>92.5</td><td>-2.2</td></tr></table> 【次年度の方針】 学級経営のポイントとして、学校全体で共通理解を図るとともに、学級活動や学校行事を効果的に活用し、自己肯定感や自己有用感を高められるよう支援していく。		R 5	R 6	比較	生徒	91.5	90.9	-0.6	教職員	94.7	92.5	-2.2
	R 5	R 6		比較												
生徒	91.5	90.9	-0.6													
教職員	94.7	92.5	-2.2													

2ー（１） グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 生徒・教職員 肯定的回答 85%以上	① 英語科教員の共通理解のもと、英語の授業では、1年時から英語での指示等を行う場面を増やし、積極的に英語を使う態度を養う。 ② 授業以外でも A L T の活用を工夫し、日常的に英語に親しむ機会を作る。 ③ 生徒に使用場面を意識させ、英語表現の使い分けができるよう日頃から指導する。	A	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td><td>比較</td></tr><tr><td>生徒</td><td>81.1</td><td>76.9</td><td>-4.2</td></tr><tr><td>教職員</td><td>92.1</td><td>95.0</td><td>+2.9</td></tr></table> 【次年度の方針】 授業において、英語でのコミュニケーション活動の充実を目指すとともに、A L T を積極的に活用した授業展開を工夫する。また、A L T と関わる機会を増やしていく。		R 5	R 6	比較	生徒	81.1	76.9	-4.2	教職員	92.1	95.0	+2.9
		R 5		R 6	比較											
生徒	81.1	76.9	-4.2													
教職員	92.1	95.0	+2.9													
A 7 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 生徒・教職員 肯定的回答 85%以上	① 宇都宮学を始めとした教科領域での授業を通して、郷土資料や郷土を題材とした教材を積極的に活用した授業の展開に努める。 ② 古墳清掃で、愛護会や市文化課とともに活動することを通して、生徒の意識を地域や社会に向けさせた広い視野を育てる。また、掲示物を工夫するなどして意識の高揚を図る。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td><td>比較</td></tr><tr><td>生徒</td><td>82.4</td><td>83.1</td><td>+0.6</td></tr><tr><td>教職員</td><td>73.7</td><td>95.0</td><td>+21.3</td></tr></table> 【次年度の方針】 総合的な学習の時間で行う「宇都宮学」の充実を図り、生徒が地域とつながれるような学習活動を取り入れたい。また、地域協議会と連携した古墳清掃など地域の史跡に触れる機会を継続して設定し、郷土愛を育む。		R 5	R 6	比較	生徒	82.4	83.1	+0.6	教職員	73.7	95.0	+21.3	
	R 5		R 6	比較												
生徒	82.4	83.1	+0.6													
教職員	73.7	95.0	+21.3													
2ー（２） 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A 8 生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 教職員 肯定的回答 90%以上	① 情報社会に対応した情報活用能力を育成するため、「情報モラル教育」の充実を図り、「宇都宮市情報モラル教育年間指導計画」に基づく、発達段階に合わせた体系的・継続的指導を行う。 ② 教職員の研修を充実し、さまざまな教科で、1人1台端末を活用した授業を実践する	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td><td>比較</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0</td><td>97.5</td><td>-2.5</td></tr></table> 【次年度の方針】 情報モラル教育については、生徒の実態や発達段階に応じて継続的に指導する。また、効果的な I C T の活用に向けた研修を行うとともに、図書資料を有効活用できるよう、図書室の活用を推進する。		R 5	R 6	比較	教職員	100.0	97.5	-2.5				
	R 5	R 6		比較												
教職員	100.0	97.5	-2.5													
2ー（３） 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育てる教育の推進	A 9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 生徒・教職員 肯定的回答 85%以上	① 各生徒会専門委員会で S D G s の取組を継続的に実践することで、「持続可能な社会」への意識を高める。 ② 教科指導のなかで、意図的に持続可能な社会に関わる題材を取り上げることで、生徒・教師共に自分たちの問題として考え実践しようとする態度を育む。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td><td>比較</td></tr><tr><td>生徒</td><td>82.8</td><td>82.9</td><td>+0.1</td></tr><tr><td>教職員</td><td>78.9</td><td>90.0</td><td>+11.1</td></tr></table> 【次年度の方針】 総合的な学習の時間を中心に、教科指導の中で「持続可能な社会」について考える機会をつくる。また、委員会活動での活動の充実を図り、意識を高めていく。		R 5	R 6	比較	生徒	82.8	82.9	+0.1	教職員	78.9	90.0	+11.1
	R 5	R 6		比較												
生徒	82.8	82.9	+0.1													
教職員	78.9	90.0	+11.1													
3ー（１） インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員 肯定的回答 85%以上	① 生徒一人一人の実情を把握し、特別な支援を必要とする生徒に対して、その実態に応じた支援ができるよう、特別支援教育コーディネーターを核とした連携を密にする。 ② 特別な支援を必要とする生徒についてのケース会議等を持ち、具体的な支援の形を職員、保護者と共有する。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 5</td><td>R 6</td><td>比較</td></tr><tr><td>教職員</td><td>89.5</td><td>97.5</td><td>+8.0</td></tr></table> 【次年度の方針】 普段から生徒の様子を把握し、報連相を密にしてきめ細かな支援に努める。また、教育相談部会等で定期的な情報共有や学校内での情報共有を行い、特別支援教育コーディネーターを中心とした組織的な対応を継続する。		R 5	R 6	比較	教職員	89.5	97.5	+8.0				
	R 5	R 6		比較												
教職員	89.5	97.5	+8.0													

3ー(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 生徒・保護者 肯定的回答85%以上	① 一人一人に丁寧に向き合うとともに、いじめの定期的なアンケートを実施し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、組織的な対応に努める。 ② 生徒・保護者との連携を密にし、信頼関係を築きながら早期発見・早期対応を図る。また、学校の取組などの情報を積極的に発信し、保護者の理解を深める。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R5</td><td>R6</td><td>比較</td></tr><tr><td>生徒</td><td>95.4</td><td>96.6</td><td>+1.3</td></tr><tr><td>保護者</td><td>68.3</td><td>73.7</td><td>+5.4</td></tr></table> 【次年度の方針】 日常の様子を把握するとともに、引き続き教育相談やアンケートを行い、未然防止、早期発見、早期対応に努める。また、些細なことでも情報共有を行い、主任・主事を中心として組織的な対応を継続する。学校の取組等を積極的に発信し、理解を得られるよう努める。		R5	R6	比較	生徒	95.4	96.6	+1.3	保護者	68.3	73.7	+5.4
		R5		R6	比較											
生徒	95.4	96.6	+1.3													
保護者	68.3	73.7	+5.4													
A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 生徒・教職員 肯定的回答90%以上	① 新たな不登校を生まないため、「挨拶」「励まし」「賞賛」など、身近な言葉かけを大切にした学級経営を行う。 ② どの生徒も活躍できる場を意図的に設定するなど、自己存在感のある学校を目指す。 ③ 教育相談機能を強化し、不登校傾向にある生徒の早期発見と学校体制での支援を行う。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R5</td><td>R6</td><td>比較</td></tr><tr><td>生徒</td><td>95.2</td><td>95.3</td><td>+0.2</td></tr><tr><td>教職員</td><td>97.4</td><td>97.5</td><td>+0.1</td></tr></table> 【次年度の方針】 日常の様子を把握するとともに、学校生活アンケートや宮っ子ダイアリーを活用し、生徒の心の変化を見逃さず、早期に適切な支援ができるよう組織で対応する。また、生徒が活躍できる機会を意図的に設定し、自己存在感や自己有用感が育まれるような働きかけを行う。		R5	R6	比較	生徒	95.2	95.3	+0.2	教職員	97.4	97.5	+0.1	
	R5		R6	比較												
生徒	95.2	95.3	+0.2													
教職員	97.4	97.5	+0.1													
3ー(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 生徒・教職員 肯定的回答90%以上	① 学校教育全体を通して、生徒の笑顔があふれるように、生徒の自発的・主体的活動を積極的に取り入れ指導に当たる。 ② 学校行事や学級活動等において、生徒が活躍できる場を意図的に設定し、認め励まし、自己有用感を高める取組を推進する。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R5</td><td>R6</td><td>比較</td></tr><tr><td>生徒</td><td>95.6</td><td>96.6</td><td>+1.1</td></tr><tr><td>教職員</td><td>97.4</td><td>97.5</td><td>+0.1</td></tr></table> 【次年度の方針】 毎日の生活はもちろん、学校行事や生徒会活動等で、生徒が自主的・主体的に取り組めるような場面を意図的に設定し、引き続き全校体制で認め励ます指導・支援に努める。		R5	R6	比較	生徒	95.6	96.6	+1.1	教職員	97.4	97.5	+0.1
	R5	R6		比較												
生徒	95.6	96.6	+1.1													
教職員	97.4	97.5	+0.1													
3ー(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化																
4ー(1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 生徒・教職員 肯定的回答90%以上	○① 授業において、互いに認め合い励まし合う学習の場を作るよう努力し、毎時間の目標と評価を関連づけた指導を徹底する。 ② 授業公開や相互授業参観等、授業実践を通じた指導力の向上に努める。 ③ 一人一台端末を効果的に利用し分かる授業を展開する。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R5</td><td>R6</td><td>比較</td></tr><tr><td>生徒</td><td>92.2</td><td>95.5</td><td>+3.3</td></tr><tr><td>教職員</td><td>94.7</td><td>97.5</td><td>+2.8</td></tr></table> 【次年度の方針】 一人一台端末の効果的な利用や分かる授業の展開の工夫を目指し、一人一授業の実施や相互授業参観を通して指導力の向上に努める。また、生徒が質問しやすい環境づくりや互いに教え合う活動を増やすなど、授業改善に努める。		R5	R6	比較	生徒	92.2	95.5	+3.3	教職員	94.7	97.5	+2.8
	R5	R6		比較												
生徒	92.2	95.5	+3.3													
教職員	94.7	97.5	+2.8													

4-（2） チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員 肯定的回答90%以上	① 学校の組織力を強化し、生徒への指導・支援の充実を図るため、教員同士の連携を密にする。 ② チームとしての学校の力を高めていくために、ベテラン教員の経験を生かせる配置やミドルリーダーを中心とした業務分担、若手教員の活躍の場を意図的に設定する。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R5</td><td>R6</td><td>比較</td></tr><tr><td>教職員</td><td>78.9</td><td>95.0</td><td>+16.1</td></tr></table> 【次年度の方針】 今年度に引き続き、職員一人一人が自分の意見や考えを言いやすく、多様な考えが認められるような学校経営、学年経営に努める。また、教職員の能力や特性を十分発揮できるような校務分掌や校内体制を組織し、チームとしての学校の力を高めていく。		R5	R6	比較	教職員	78.9	95.0	+16.1								
		R5		R6	比較															
教職員	78.9	95.0	+16.1																	
4-（3） 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員 肯定的回答85%以上	① 月に一度のリフレッシュデーの定時退庁をめざし、計画的な業務遂行や、退庁時間から逆算した業務遂行を意識する。 ② 「ワークライフバランス」の取れた働き方への意識改革を進めるとともに、ICTを活用した情報共有や提示方法を工夫し業務のスリム化を推進する。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R5</td><td>R6</td><td>比較</td></tr><tr><td>教職員</td><td>68.4</td><td>75.0</td><td>+6.6</td></tr></table> 【次年度の方針】 引き続き、業務の見直しやICTの活用、校務分掌の適正化、放課後時間の確保など、量的な業務の改善を図るとともに、定時退庁日の設定や計画的な業務遂行に努める。		R5	R6	比較	教職員	68.4	75.0	+6.6								
	R5	R6		比較																
教職員	68.4	75.0	+6.6																	
5-（1） 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 教職員 肯定的回答85%以上	○① 豊郷地域の子供たちを、9か年を通して育成するという共通認識のもと、小中で連携を図っていく。 ○② 計画的に運営委員会、各部会を実施し、小学校との連絡・調整を図り、社会情勢に合わせた様々な活動を工夫する。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R5</td><td>R6</td><td>比較</td></tr><tr><td>教職員</td><td>78.9</td><td>85.0</td><td>+6.1</td></tr></table> 【次年度の方針】 運営委員会や各部会を開催し、教科の課題や指導の重点等の情報共有や取組の検討を行い、継続して小中連携を図る。また、あいさつ運動やボランティア活動への参加についても推進していく。		R5	R6	比較	教職員	78.9	85.0	+6.1								
	R5	R6		比較																
教職員	78.9	85.0	+6.1																	
5-（2） 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 教職員・保護者・地域住民 肯定的回答85%以上	① 家庭への積極的な情報発信と相互理解を推進するため、各種通知や学校HPの利用、保護者会や三者懇談の機会を活用して学校の取組や生徒の様子の情報発信に努める。 ② 魅力ある学校づくり地域協議会との連携を強化し、保護者や地域住民の意見を的確に学校運営に反映させる。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R5</td><td>R6</td><td>比較</td></tr><tr><td>教職員</td><td>89.5</td><td>97.5</td><td>+8.0</td></tr><tr><td>保護者</td><td>78.4</td><td>84.7</td><td>+6.4</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0</td><td>100.0</td><td>0</td></tr></table> 【次年度の方針】 保護者会や授業参観、オープンスクール等、保護者が学校に来る機会を確保する。また、各種たよりや学校HP等を充実させ、情報発信に努める。		R5	R6	比較	教職員	89.5	97.5	+8.0	保護者	78.4	84.7	+6.4	地域住民	100.0	100.0	0
				R5	R6	比較														
教職員	89.5	97.5	+8.0																	
保護者	78.4	84.7	+6.4																	
地域住民	100.0	100.0	0																	
5-（3） 地域と連携・協働した学校づくりの推進																				
6-（1） 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 教職員・保護者 肯定的回答90%以上	① 月1回の安全点検や日常的な点検を強化し、危機管理意識の高揚を図るとともに、修繕等が必要な場合は速やかに対応し、安全が保たれるようにする。 ② 施設内の施設点検や修繕の実施状況等を各種たよりやHP等を活用して周知し、取組の理解促進を図る。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R5</td><td>R6</td><td>比較</td></tr><tr><td>教職員</td><td>92.0</td><td>90.0</td><td>-2.1</td></tr><tr><td>保護者</td><td>86.1</td><td>87.9</td><td>+1.8</td></tr></table> 【次年度の方針】 施設点検や日常的な点検を確実に実施し、安全に配慮した環境づくりに努める。また、安全に対する環境整備や取組の様子を積極的に発信していく。		R5	R6	比較	教職員	92.0	90.0	-2.1	保護者	86.1	87.9	+1.8				
	R5	R6		比較																
教職員	92.0	90.0	-2.1																	
保護者	86.1	87.9	+1.8																	

6ー(2) 学校のデジ タル化推進	A20 コンピュータなどのデ ジタル機器やネットワー クの点から、授業（授業 準備も含む）を行うため の準備ができている。 【数値指標】 教職員 肯定的回答85%以上	① 1人1台端末が有効利用できるた めの環境整備を行う。 ② コンピュータなどを活用した授 業ができるよう、OJTや研修等に 積極的に取り組む。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R5</td><td>R6</td><td>比較</td></tr><tr><td>教職員</td><td>94.7</td><td>90.0</td><td>-4.7</td></tr></table> 【次年度の方針】 一人一台端末の効果的な活用ができ よう実践例を収集し共有するなど、研 修へ積極的に取り組む。また、ICT支 援員との連携を図りながら、いつでも利 用できる環境整備に努める。		R5	R6	比較	教職員	94.7	90.0	-4.7				
		R5		R6	比較											
教職員	94.7	90.0	-4.7													
小・中学 校、地域 学校共 通、本校 の特色・ 課題等	B1 生徒は、時と場に応じ たあいさつをしている。 【数値指標】 生徒・教職員 肯定的回答90%以上	○① 校外でのあいさつをさらに 充実したものにするとともに、地域 協議会や小学校と連携して、地域学 校園全体であいさつ運動をさらに 展開していく。 ② 様々な活動を通してあいさつの 習慣化を図るとともに、教師が率先 垂範で取り組んでいく。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R5</td><td>R6</td><td>比較</td></tr><tr><td>生徒</td><td>98.7</td><td>98.3</td><td>-0.4</td></tr><tr><td>教職員</td><td>92.5</td><td>91.1</td><td>-4.9</td></tr></table> 【次年度の方針】 あいさつの意義を生徒へ伝えるとと もに、日常生活の様々な活動場面で教職 員が率先垂範で取り組む。また、小中連 携あいさつ運動については、継続して実 施していく。		R5	R6	比較	生徒	98.7	98.3	-0.4	教職員	92.5	91.1	-4.9
		R5		R6	比較											
	生徒	98.7	98.3	-0.4												
教職員	92.5	91.1	-4.9													
B2 生徒は、きまりやマナ ーを守って、生活をして いる。 【数値指標】 生徒・教職員 肯定的回答90%以上	○① 時間を守る、身の回りの整理整 頓や状況に応じた礼儀・態度など基 本的生活習慣を身につけさせると ともに、登下校時の交通マナーの徹 底に取り組む。 ② タイム着席や語先後礼式あいさ つ、黙動等の本校独自の取組を、教 職員が率先垂範の姿勢で行動し、生 徒が自立的に取り組めるよう、指導 の充実を図る。	A	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R5</td><td>R6</td><td>比較</td></tr><tr><td>生徒</td><td>97.0</td><td>98.0</td><td>+0.9</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0</td><td>92.5</td><td>-7.5</td></tr></table> 【次年度の方針】 ルールやマナーをなぜ守る必要があ るのかを考えさせ、生徒自身が自ら判断 し、正しい行動ができるよう支援してい く。特に自転車の乗り方については、繰 り返し指導を行い、交通マナーの向上に 努める。		R5	R6	比較	生徒	97.0	98.0	+0.9	教職員	100.0	92.5	-7.5	
	R5	R6	比較													
生徒	97.0	98.0	+0.9													
教職員	100.0	92.5	-7.5													
B3 教職員は、お互いの授 業を参観しあうなど、授 業実践を通して授業力向 上を図っている。 【数値指標】 教職員 肯定的回答85%以上	① それぞれの教職員が、授業力の向 上を目指し、年1回以上は公開授業 を行う。異なる教科も含めて、同僚 の授業を参観することで、授業改善 の方策を探る。 ② 教職員間で授業を見せ合い、教科 部会や研修の機会を充実させるな ど、授業力向上に向けた機運の醸成 を図る。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R5</td><td>R6</td><td>比較</td></tr><tr><td>教職員</td><td>73.7</td><td>87.5</td><td>+13.8</td></tr></table> 【次年度の方針】 一人一授業の実践や相互授業参観を 継続して行うとともに、気軽に参観でき るような雰囲気づくりを行う。また、一 人一台端末の効果的な利用について、職 員研修を位置付けるなど、更なる授業力 向上に努める。		R5	R6	比較	教職員	73.7	87.5	+13.8					
	R5	R6	比較													
教職員	73.7	87.5	+13.8													

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・学校全体をみると、肯定的回答の割合が80%以上の項目は、全体の約91%となっており、今年度の本校の取組についてはおおむね良好であり、成果が見られた場面が多かったと思われる。
- ・生徒の肯定的回答で、昨年度に引き続き継続して高い、また向上が見られる項目は、A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している」(95.4%)、A12「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている」(95.2%)、A13「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」(95.6%)、B1「生徒は、時と場に応じた挨拶をしている」(98.7%)、B2「生徒は、決まりやマナーを守って、生活をしている」(97.0%)であった。いずれも肯定的回答は95%以上と高い値を示しており、今年度の生徒指導の重点目標「自主性と豊かな心や社会性と持った生徒の育成」の成果と捉えている。
- ・A6の「英語を使ってコミュニケーションをしている」については、生徒の質問項目の中で一番低い結果となった。英語の

授業の中では、積極的に英語を使ったコミュニケーション活動を取り入れている様子が見られ、着実に力も身に付いているが、思ったような評価にはつながらなかった。

・教職員の評価項目の中で一番の課題としていた A16「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」については、市の平均値には届かなかったものの、昨年度比 6.6 ポイントの増加が見られた。行事の見直しや業務のデジタル化、部活動の終了時刻の見直し、先を見通した業務への取組や複数人で対応に当たる体制作り等、勤務時間を意識した取組が浸透してきた表れと思われる。

・昨年度と比較して、教職員の肯定的回答で顕著な増加が見られたのは、A7「生徒は、宇都宮の良さを知っている」、A15「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」であった。A7 については、21.3 ポイントの大幅な増加が見られており、総合的な学習の時間を中心とした宇都宮学の取組が充実したものであったと捉えている。また、A15 については、16.1 ポイントの増加がみられた。主任・主事や係の担当者が中心となって連携を密にし、情報を共有しながら一丸となって生徒の指導にあったことが、評価につながったと思われる。

・保護者の評価項目の中で、教職員の関りが強く評価に反映されると思われる項目、A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している」、A12「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている」、A13「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」、A14「教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている」で増加が見られた。特に A14 は、保護者の評価項目の中では一番顕著な伸びが見られた項目であり、11.3 ポイントも増加した。昨年度の結果では課題となっていた項目でもあるため、引き続き学校全体として取り組んでいく必要があると思われる。

・全体的に、本校の結果を市平均と比較すると、多くの項目で市平均を上回る結果であった。

7 学校関係者評価

・地域未来会議で生徒会の方々とグループディスカッションした際、この地域や人への愛を感じた。

・職員の方々の細やかな配慮が感じ取れた。

・宇都宮学の授業で、より地域の素晴らしさを確認できたことと、生徒が今までに出会った家族や学校、地域の方の「よさ」を感じているからだと思った。

・生徒の肯定的回答割合を市の割合と比較したとき、ほぼすべてが市平均を超えており、豊中生徒の意識向上を感じた。また、教職員も半分以上が市平均を超えており、良い雰囲気の中でご指導いただけていることが分かった。

・保護者の回答もほぼ上がっている。授業参観や学校行事等で学校に来る機会も増え、保護者の方の関りも増えてきていることから意識向上も見られるのではないと思う。

・学校に興味を持っていたきどんどん関わってほしい。

・A7「生徒は、宇都宮の良さを知っている」の肯定的回答について、生徒の伸びは小さいが教職員が大きく伸びており、意識の差があるように感じる。宇都宮学等の取組や学習の成果を教職員は評価している表れだと思うので、生徒も学習の成果を実感できるようにご指導をお願いしたい。

・A11～A14 について、生徒の結果は継続して高い値となっており、学校としても成果が表れている部分と感じるが、保護者の肯定的回答が生徒や教職員に比べてやや厳しいものであると感じる。学校がしっかりと取り組んでいることを積極的に伝えていく必要がある。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

・学校全体として、落ち着いた雰囲気中学校生活を送ることができている。時計を見て行動する「タイム着席」が定着し、基本的な学習習慣が確立するなど、多くの生徒が前向きに学習に取り組んでいる。また、学校行事への取組も意欲的で、リーダーを中心にクラスで団結し、行事当日は全員で大いに盛り上がる事が出来る。メリハリをつけながら何事にも取り組む姿勢は素晴らしく、その姿勢を今後も続けられるよう支援していきたい。

・きまりやマナーを守って生活することについて、生徒は高く評価をしている。本校では、生徒自身が自ら判断し、正しい行動ができるよう支援しており、生徒自身もその方針に則って生活ができている。しかし、自転車の登校下校などの交通安全については、公共のマナーに反する行動が見られることがあり、大きな課題でもある。継続して指導をしていくことはもちろん、保護者との連携を図りながら安全安心な生活につなげていきたい。

・今年度は、学年ごとの保護者会の開催や授業参観、体育祭や文化祭などの学校行事、オープンスクール等を実施した際に多くの保護者が来校し、生徒や学校の様子を見ていただくことができた。全体アンケートの自由記述では、行事での生徒の頑張りと教職員のきめ細やかな指導、生徒と教職員が一緒になって活動していること等、好意的な意見が見られており、本校の1年間の取組への理解が深まったと感じている。一方で、生徒や教職員と保護者の意識の差も感じられる。引

き続き保護者が来校できる機会を確保するとともに、各種たよりやＨＰ等を通して、生徒の様子や活動の様子を積極的に発信していきたい。

・課題の一つである業務の効率化については、改善傾向はみられるものの、市平均よりも低い結果である。職員全体に業務改善の意識の高揚が見られるため、さらなる工夫・改善に取り組んでいきたい。